

第36回 中東協力現地会議に久保田理事長がパネリストとして参加

経済産業省及び財団法人中東協力センターが主催する「第36回中東協力現地会議」が、8月25日、26日両日にかけて、トルコ共和国イスタンブールで開かれました。

この会議は、中東・北アフリカ諸国及びその関連地域に駐在されている方々と、日本から参加する産官学の関係者が300名ほど一堂に会し、その時々々の政治・経済・社会情勢を踏まえ、我が国と中東地域の協力関係やそれを具現化するためのアプローチを議論するものです。

この会議には、奥田碩中東協力センター会長（日本経済団体連合会元会長）をはじめ、中東・北アフリカ諸国の5人の大使、経産省の佐々木通商政策局長、外務省松富中東局長などの政府高官、JETRO 林理事長など中東に関係する政府関係機関、団体の幹部の方々、講演者として、寺島実朗様、東大山内教授、宮家立命館大学教授、エンジニアリング協会関係者では、日揮の川名社長、TECの永田会長など、産官学から多数の方々に参加されました。

こうした中で、当協会の久保田隆理事長が、中東地域で活躍する日系企業の代表として、本会議の最後を飾るパネルディスカッション（「変貌する中東・北アフリカ情勢と日本のビジネス/産業協力」）に参加され、「エンジニアリングを通じての中東への協力」との演題で、エンジニアリング産業の必要性とこれまでの中東における日本のエンジニアリング企業の貢献や中東マーケットの重要性に付きお話しされるとともに、当協会の活動状況についても説明されました。更に、エンジニアリング業界関係者を代表し、政府関係機関（特に、国際協力銀行や日本貿易保険）に対して、現地通貨建て融資の拡大、迅速な融資の実行などを要望されました。



久保田理事長（左）と前野専務理事



講演する久保田理事長